

## 令和4年度 第2回 砂川市小中一貫教育推進委員会 会議記録

○日 時 令和4年9月22日(木) 18:00~18:45 (所要時間=45分)

○会 場 砂川市役所 2階 大会議室

○出席者

【委 員】 14人 (校長7人、教頭6人、主幹教諭1人)

【教育委員会】 6人 教育次長、指導参事、技監、学務課長、総務係長、学校教育係長

【事務局】 5人 学校再編課長、学校再編課長補佐、学校再編係長、学校再編係主事2人

○傍聴者 1人 (男性0名、女性1名)

○議事記録

1. 開 会

2. 挨拶 小中一貫教育推進委員会会長

3. 報告事項

- ・小中一貫教育に関わる視察について
- ・特別部会の経過報告について

【議事の内容(要旨)】

事務局 事務局 小中一貫教育に関わる視察について  
1点目、「小中一貫教育に関わる視察について」報告します。資料は、1ページ及び2ページです。

7月21日、小中一貫教育の先進地である北広島市の視察に、小中一貫教育推進委員会の会長、副会長及び校長会、教頭会、教育委員会事務局職員の計8人で、北広島市立東部中学校社会科教諭による東部小学校6年生の社会科授業の乗り入れ授業の参観のほか、小中一貫教育の取り組みについて説明を受けてきました。

北広島市では、平成30年度から全市で小中一貫教育に取り組んでおり、北広島市の小中一貫教育の基本方針のもと、小学校9校、中学校7校の16校で中学校区ごとに小中一貫教育推進組織を作り、共通の取り組みのほか、それぞれ独自の取り組みも実施しています。

今回視察した東部小学校6年生社会科、5年生家庭科の乗り入れ授業では、東部中学校の教諭が1年間授業を受け持っており、児童においては中学校の授業に慣れることができることや、中学校へ進学した際には、知っている先生がいるというのは心強いというメリットがあるということ伺いました。また、東部中学校にとっても、児童の特徴を入学前に知ることができるのは非常に有益であるというお話も

伺っています。

そのほか、9年間を見通した指導においては、小学校では單元ごとのテストを行っていますが、中学校の広範囲での定期テストを意識させるため、6年生に対して中学模擬テストとして、中学校教諭が作成しテストを受けてもらう取り組みを行い、中学校での中間テストや期末テストといった範囲の広いテストになっても困らないような準備をしているとのことでした。

北広島市の取り組みについては、砂川市の小中一貫教育を推進する上で、参考となる良い事例が多く、有意義な視察となりました。なお、今回、視察資料をお手元にお配りしておりますので後ほど高覧いただければと存じます。

会長 事務局より北広島市の視察について説明がありましたが、小中一貫教育推進委員会からも委員が参加しているので、それぞれ感想をいただきたいと思います。

委員 北広島市役所にも入らせてもらったのですが、今、北広島市は球場が新しくできるということで街の活気を感じました。その活気が、これから教育にもおそらく良い影響を与えていくのだと思いました。砂川市も誇るべき街の財産がたくさんあると思うので、新しくできた学校で、キャリア教育になるのか総合的な学習になるのかわかりませんが、学校教育にうまく繋がれば良いと思いました。

会長 続いてお願いします。

委員 1番印象的だったのは、小中一貫教育というのは、中学校区ごとで小中連携を深めていくという動きなので、砂川に照らし合わせると義務教育学校開設の前段を見た気がしました。学校間や地域も巻き込んで、中学校区で非常に密な連携を取っていました。社会科の乗り入れ授業は、中学校の授業ペース、中学校のやり方、教員のやり方など小学校では見られない部分が今回体験できて、「ギャップを埋める」というところのギャップの箇所が見られたと思います。砂川でも、乗り入れ授業などを実施してギャップを埋めることも必要だと強く感じました。

会長 私も小中一貫教育の視察をさせてもらって感じたことなのですが、小中一貫教育を進める上で誰と誰を繋げるのかという視点を持って取り組むことが大事だと思います。この後、各部会からの報告があると思いますが、今は、子ども達を繋げるという視点がメインになると思います。子ども達を繋げる取り組みは、もちろん大事なことだと思いますが、さらに小中一貫教育を進める上で、同じぐらい大事なことは、小学校と中学校の職員の繋がりをどのように作るのかだと思います。職員1人1人にも小中一貫教育の必要性和必然性を理解してもらい、小学校と中学校の文化の違い、中一ギャップの解消、5校ある小学校の子ども達が1校に集まった時の不安を少しずつでも軽減するための子ども達の繋がりや職員同士の連携を計画していくことが本当に大事だと思います。北広島市では、小中一貫教育を始める時には、職員の間で小中一貫教育に対して否定的な反応がありましたが、連携を始めて、子ども達の変化を可視化して職員自身も「やってよかった」という実感を持って、初めて小中一貫教育が動き出したという話を聞きました。砂川市は、スター

トの第一歩になるので、地域を巻き込んだ子ども達の繋がり、職員の繋がり的大事になると思うので、今回の視察が役に立つと良いと思いました。

今、事務局から視察に関わっての説明、それから視察に参加した委員から感想等がありました。何か質問、確認しておきたいことがあれば、挙手の上発言をお願いします。

・特別部会の経過報告について

会長 2点目、「特別部会の経過報告について」各部会長から説明をお願いします。小学校教育課程部会をお願いします。

委員 小学校教育課程部会は、8月19日に第1回の部会を開催しました。内容は、大きく分けて3点について確認、協議しました。

1点目は、本部会の取り組み内容について確認しました。主に学習スタイルや規律、授業スタイル統一に向けて検証・運用、そして定着を進めるということで、5ページの日程で進めてきました。

2点目は、今後の推進日程について確認しました。同じく5ページ、それから6ページをもとに説明をして共通理解を図りました。なお、次回の2回目は、11月18日を予定しています。

3点目は、各校の授業スタイルについて交流しました。各校から資料を持ち寄り、現状の交流を行いました。それを受けて、第2回の部会では、授業スタイル案を作成して検討したいと思います。授業スタイルについては、学校規模や学級編制の違いから全てを統一するのは、今のところ少し難しい部分もあると感じています。そのため、部会で義務教育学校の開校に向けて授業スタンダードを作り、実践していくことで確認しています。

教育課程部会の取り組みの内容については、教員の日常の実践でもすごく関わらると思うので、各校の教員への周知が確実にされることと、実践をもとに検討を重ねていくことが非常に大事だと考えています。

会長 小学校教育課程部会の報告について、何か質問、確認しておきたいことがあれば、挙手の上発言をお願いします。続いて小小連携事業部会をお願いします。

委員 小小連携事業部会では、これまで2回の部会を開催しています。7ページの資料では、他の部会に踏み込んでいる内容も書かれていますが、基本的に小小連携事業部会では、小学生同士のレクリエーションを中心に考えるということになり、今年度は2回実施しますが、令和8年度に向けて事業を広げていくことを部会の中で確認しています。現在は、8ページの2番に書かれている10月21日金曜日に行われる市内5校の6年生の交流事業について準備を進めています。

次回の部会の開催は9月29日となり、10月21日に実施される第1回目の5校交流事業についての詳細が決定されます。さらに、次年度の遠足についての日程も提案することになっています。

10ページ、今年度以降、交流会の分担については、8番にあるように輪番で決定しています。北光小学校は、複式学級を抱えているという負担を考慮して、担当に

は入れないという対応をしています。

11 ページ、今年度担当の中央小学校から提案していただいた2回分のレクリエーションの内容となりますが、10月21日の午後、バスで総合体育館に集合し、6年生が交流を行います。

12 ページは、レクリエーションの内容について、提案していただいたものです。次回、9月29日の会議で詳細が決定し、10月21日に実施となります。

会長

小中連携事業部会の報告について、何か質問、確認しておきたいことがあれば、挙手の上発言をお願いします。イメージとしては、「砂川市内の小学生みんな顔見知りになりましょう」ということです。来年度、全ての小学校から砂川中学校に生徒が入学した時に、交流事業がきっかけで会話がすぐできるような状況がきっと出てくると思います。続いて小中連携事業部会をお願いします。

委員

小中連携事業部会は、令和8年度の義務教育学校開校に向けて、小中学校のスムーズな接続に向けた活動を推進することが目的になります。今年度の具体的な取り組み内容として、二つあります。

(1) 家庭学習強化週間です。すでに小学校でも行われている取り組みだと思えますが、中学校の定期テストに向けて1週間前から小学校の家庭でも学習に取り組みます。開始時期は、前期の期末テストからとしますが、前期の期末テストに間に合わなければ後期の中間テスト11月から全市内小学校揃えてスタートします。事後として、保護者にアンケートを実施し、周知する形を取りたいと考えています。

(2) 中学校教員の乗り入れ授業です。先ほど、北広島市の事例も報告されましたが、中学校の教員が専門的な指導を早期に小学校で行い、児童が中学校の授業に慣れ、中一ギャップの解消を図ることを一つの目的としています。合わせて、小学校の先生が中学校の専門的な指導方法を学ぶという研修的な側面、次年度以降中学校に入学する児童の様子を中学校が把握するという生徒指導的な側面も目的としています。対象の学年は、今年度は6年生を対象に12月から2月、各小学校1回以上、来年度以降については5・6年生を対象として、8月以降複数回実施を予定しています。

実施場所や乗り入れる中学校の教員については、各小学校からの要望に合わせて、部会長と相談しながら、中学校の教員を派遣するという形を取ります。会議の中で要望シートが少し書きにくいという意見があったので、本日、改めて配付した要望シートに様式を改めています。日程や内容を定めてしまうと非常に調整が難しくなるということで、第一希望から第三希望まで幅を持たせて記入できるようにシートを変更しました。併せて、事業内容等についても、「小学校の先生が考えるよりも中学校の先生が考えて進めていく形が良いのではないか」という意見がありましたので、そのような形に変更しています。こちらも授業後にアンケートを実施し、周知したいと思います。現在は、3つの小学校からすでに要望シートが提出されており、現在、小学校に派遣する教員を選定中です。

会長

小中連携事業部会の報告について、何か質問、確認しておきたいことがあれば、挙手の上発言をお願いします。

- 委員 13 ページ、家庭学習強化週間について、3の(1)の②の時期で前期の期末テストが、砂川中学校が9月8日で石山中学校が9月21日でした。そして、今年度は、小学校5校の遠足が9月2日でした。今年度、遠足が砂川中学校区の家庭学習強化週間とバッティングしましたので、次年度の中学校区は市内全部の小学校になるので、早めに日程調整をお願いします。小中連携事業部会が日程調整するのかわかりませんが、決めていただく方が各学校の行事策定の際にはすごくありがたいと思います。
- 会長 今年度の途中から家庭学習強化週間を実施することになったので、日程に不都合が生じてしまったのだと思います。次年度については、小中一貫教育推進委員会で行う事業として、家庭学習強化週間は、行事予定の中に入れる必要があると思います。他どうでしょうか。
- 委員 家庭学習強化週間について、家庭学習というのは、どこからどこまでの範囲ですか。家庭学習の定義が揃っていると、それに対して計画を立てることができると思います。家庭学習の定義を決めるのは、小中連携事業部会か小学校教育課程部会かという話にもなると思いますが、家庭学習の枠組みから揃えられると良いかなと思います。中学校の段階でどのくらいの家庭学習をイメージしているのかということがあると1年生からどのようにして行くのかという議論にもなるので、中学校も含めて砂川市としてどのような家庭学習をする子を育てたいのかということも話題にさせていただけると良いと思います。
- 会長 今の意見は、すごく大事な視点だと思います。学年が上がっていくにつれ、先を見通している担任は、高学年になったら宿題でやらせたい部分もありますが、中学校では、自分で課題を見つけて勉強ができなかったらやっていけないと考えて家庭学習の仕方を指導すると思います。今ここで大事なのが、担任任せでは家庭学習の仕方がバラバラになってしまうということです。これは、小学校教育課程部会の砂川スタンダードを作るという話にも繋がってくると思います。砂川市では、どの段階で、どの学年の子供に、どこまでを求めるのか今後先生達で協議が必要だと思います。今年は、まず実施して、ブラッシュアップしていくのは、子ども達や職員の反省、保護者のアンケート結果からどのように改善していくのかを考えるのが良いと思いました。他どうでしょうか。
- 事務局 小学校は担任の先生任せになっているところが多々あり、学校全体というよりは、各担任の裁量になっているところは多いと思います。ただ、令和8年度に全ての児童生徒が一つの学校に集まり、9年間を見通した教育課程の中で学習活動に取り組んでいくと考えれば、家庭学習に関わる取り組みについても小学校の段階から、ある程度具体的に「こんなことを家庭学習で取り組むことが大切です」ということを市内5校の小学校で取り組んでいく必要があると思います。それが、中学校の学習活動に結びつくと考えています。例えば、小中連携事業部会で、家庭学習の取り組みについて、来年度以降、共有していくことも一つの方法として考えられると思いますので、小中一貫教育推進委員会としても、具体的な取り組みを進めてい

く必要があるものと考えています。それについては、また皆さんから意見を伺いながら取り組みを進めていきたいと考えています。

会長

それから、今後、家庭学習の目安の時間は、どのくらい必要なのかも議論していただけたら良いと思います。他どうでしょうか。今回は、それぞれの部会の計画案なので、実際に実施してみて結果がわからないと話が進まないと思います。今回、小学校教育課程部会、小小連携事業部会、小中連携事業部会の事業計画が確認されたので、それぞれの学校の中で「今後、こういった部会ごとに事業を行っていき、そのねらいはこういったものです」というのを教員にもしっかりと伝えていただきたいと思います。事務局に意見なのですが、今後、部会ごとに実施される活動を保護者や小学校・中学校の教職員に対して、もう少しオープンになるような仕組みがあると良いと思いましたので、検討をお願いします。

#### 4. その他

##### 【議事の内容（要旨）】

会長

それでは、続いて日程の4. その他について、何か質問、確認しておきたいことがあれば、挙手の上発言をお願いします。事務局何かありますか。

事務局

次回の日程について、行事等を考慮しながら、後日また改めてお示しします。

会長

次回の日程は、別途案内します。これで第2回小中一貫教育推進委員会を閉会します。ありがとうございました。

以 上